

令和4年度「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」実施報告

令和4年9月16日に林野庁三重森林管理署と環境省吉野熊野国立公園管理事務所の共催による「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」を開催しました。



大台ヶ原（正木ヶ原）の景色

大台ヶ原の正木峠から正木ヶ原にかけては、かつて森林が鬱蒼とし、林床はコケに覆われていましたが、現在はササ原に枯木や倒木という風景が広がっています。三重森林管理署と吉野熊野国立公園管理事務所は、これを再生するための様々な取組を広く一般の方に知っていただき、体験していただくことを目的としてイベントを開催しています。

このイベントでは、森林再生応援団となるボランティアの一般募集を行い、申し込んだ方々に参加していただき、トウヒ、ウラジロモミなどの母樹や稚樹をニホンジカによる食害被害から守る応援作業を実施しています。



大台ヶ原ビジターセンター前にて（集合写真）

当日は総勢 33 名のボランティアが参集し、台風 14 号が接近しており空模様を心配していましたが、天候に恵まれ晴天となり、開催することができました。

はじめに、大台ヶ原ビジターセンター前にて開会式、集合写真の撮影を行った後、5 人程度一組の 7 班に分かれて、正木ヶ原へと出発しました。



移動途中の林内の様子（中道にて）

正木ヶ原に到着し昼食を取りながら、三重森林管理署と吉野熊野国立公園管理事務所から大台ヶ原（正木ヶ原・大杉谷国有林）における森林再生の取り組みについて紹介し、続いて、この地域で大杉谷登山センター山岳救助隊（宮川森林組合）として活躍されている森正裕講師から、近年の大台ヶ原・大杉谷の様子や宮川森林組合での地域性苗木を使用した多様な樹種による森づくりについての講話をしていただきました。参加者は熱心に耳を傾けていました。（地域性苗木とは、その地域に自生する樹木の種子から育てた苗木のことです。）



森講師による講話の様子（正木ヶ原にて）

午後からは、トウヒの稚樹を守る防護柵内のササ刈り班と、トウヒ・ウラジロモミなどの母樹の剥皮被害から樹木を守るネット巻き班に別れて作業場所まで移動し、職員らから注意事項、作業の手本の説明を受けた後、作業を行っていただきました。

何度も参加している方が率先して作業し、初参加の方もそれに続き、約1時間程度で計画していた作業を終え、富士見辻の展望テラスへ移動しました。



ササ刈り作業（環境省）



ネット巻き作業（三重森林管理署）



富士見辻の展望テラスにて（集合写真）

本来であれば、富士見辻の展望テラスからの眺望は素晴らしく、遠く熊野灘を望むことができますのですが、台風の影響か背景が雲に覆われた集合写真を撮影し、大台ヶ原ビジターセンターへ戻り、閉会式を行いました。

参加者からは、「ネット巻きをするようなボランティアは他の地域で何度か参加しているが、大台ヶ原は初めて来た。来年も参加したい。」「取り組みについて大変勉強になった。次はササ刈りで参加したい。」というような感想をいただきました。

今後も、参加経験の有無に関わらず、森林や動植物などの自然に興味関心を持つ多くの方々のご参加をお待ちしています。